

第3回県政知事懇談

湯崎英彦の宝さがし 未来チャレンジ・トーク

と き 平成23年9月17日(土)

ところ 呉市福祉会館 5Fホール

広島県

目 次 頁

開 会	1
知事挨拶	1
事例発表者紹介	2
ビジョン発表	2
事例発表	9
意見交換	18
挑戦発表	21
閉 会	27

開 会

(司会 (八幡))

皆さん、こんにちは。大変長らくお待たせをいたしました。ただいまから「湯崎英彦の宝さがしー未来チャレンジ・トーク」を開催いたします。

私は、広島県広報課の八幡と申します。

本日は足元の悪い中、多数お集まりいただき、誠にありがとうございます。今日はチャレンジに向けて、明るく、楽しく、元気の出る会にしたいと思っております。どうかよろしくをお願いいたします。

なお、広島県では、省エネルギーを進めるためにカジュアル・クールビズを実施し、県が主催する行事などには軽装で臨むこととしておりますので、どうかよろしくをお願いいたします。

知事挨拶

(司 会)

それでは、初めに湯崎英彦広島県知事が御挨拶を申し上げます。

(知事 (湯崎))

皆様、こんにちは。本日は、土曜日、また雨でお足元の悪い中、本当にたくさんの皆様にお集まりいただきましてありがとうございます。

本日は、呉市と江田島市を中心としてこの県政懇談会「湯崎英彦の宝さがし」を開催させていただきます。この懇談会は昨年からやっているもので、昨年はそれぞれの市町にお伺いをしまして、10人ぐらいの出席の代表の方々と懇談をさせていただくという方式でやっておりましたけれども、今年は、昨年広島県で策定をいたしました「ひろしま未来チャレンジビジョン」という広島県の10年間の計画、こういうふうになりたいなというビジョンを私から御紹介させていただいて、それから3名の地元の皆様に、今、挑戦をさせていただいていることについて発表をさせていただくと、そういう形式をとっております。

昨年行いましたこの県政懇談会におきましては、本当にたくさんの皆様に御参加いただいて、いろいろな御意見をいただきました。広島県全体として、県政を行っていく上でも大変参考になったと思っております。

その中でもいろいろな良い取組、活発な取組をされている方が地元にとたくさんいらっしゃったので、それをみんなで共有したい。そうすることによって、また地域の元気が出ていくのではないかということで、このような今年の企画になっております。それぞれの

立場、それぞれの分野でいろいろな活動を行っていらっしゃいます。後ほどまた楽しみに
お伺いしたいと思います。

これからしばらく、3時10分ぐらいまで、長時間おつき合いいただくこととなりますけ
れども、どうぞお時間の許す限り、できるだけ最後まで楽しく御覧いただければと思っ
ております。どうぞよろしくお願いいたします。

(司 会)

湯崎知事、ありがとうございました。湯崎知事、壇上のお席にお座りください。

事例発表者紹介

(司 会)

それでは、本日の事例発表の皆様を御紹介いたします。発表者の皆様は壇上にお上がり
ください。

それでは、順番に御紹介いたします。

まず、呉市でボランティアの活動支援を行っておられるNPOサポートセンターくれ
シェンド事務局長の井上孝子さんです。

続きまして、呉市下蒲刈町で獅子舞の復活を通じて地域の活性化に取り組んでおられる
下島青年会の岸菜宝治さんです。

江田島市で生産者団体、行政と連携をした、オリーブを中心とした地域の活性化に取り
組んでおられる江田島市オリーブ振興協議会会長の空久保求さんです。

どうもありがとうございました。事例発表者の皆様は壇上のお席にお座りください。後
ほど事例発表をよろしくお願いいたします。

ビジョン発表

(司 会)

それでは、初めに湯崎英彦広島県知事が「ひろしま未来チャレンジビジョン」について
の発表を行います。湯崎知事、どうぞよろしくお願いいたします。

(知 事)

それでは、どうぞよろしくお願いいたします。先ほども申し上げましたように、昨年策
定いたしました広島県の10年間の長期計画であります「ひろしま未来チャレンジビジョ

ン」について御説明させていただきます。

この「ひろしま未来チャレンジビジョン」ですけれども、今、御紹介したとおりで、従来10年計画というものを県ではつくっていたわけですが、昨年は、計画という名前よりもビジョンという形をつくろうじゃないかということで、こういう形にしております。というのは、今、時代としては将来が不透明な中、計画といったようなかつりとしたものをつくっても、10年後の世界は皆さんなかなか見通しがつかないということもありまして、むしろこういう広島県になりたいな、という絵姿を描いたほうが分かりやすいのではないか、ということでビジョンという名前を付けております。

その中で、ビジョンの基本理念として置いておりますのが、こちらにありますように「将来にわたって『広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった』と心から思える広島県の実現」、これをしたいということでもあります。

これだけ聞くと、当たり前前の方が書いてあるという感じかもしれませんが、実際にはなかなか難しい。例えば今、広島県の実際の人口の動きというのを見ますと、若い世代、20代、もっと言うと18歳で大学に入るような年齢で、広島県の外に出て行く人が多いというのが現実です。出て行く人もいれば、入ってくる人もいますので、その差し引きがプラスであれば広島県は魅力あるということなのですけれども、今、これは出るほうが多いというのが現状です。

昔からその18歳ぐらいのときには出る人が多いということでありまして、今に始まったわけではないのですが、実は昔は30歳ぐらいになると入るほうが多かったのです。仕事のために広島県にやってくるという人が多かった。つまり、入る人が多かった。ところが、今は30代でも出る人が多い。40代も出る人が多い。50代も出る人が多い。60代になってようやく入ってくる人が多くなるという形になっていまして、全年齢をあわせて出る人が多いということになっているわけです。

ということは、個々に広島は好きだなという方はもちろんたくさんいらっしゃるのですが、全体で見ると、この「生まれ、育ち、住み、働いて良かった」となかなか思えていただけていないのではないかと考えています。これが本当にこういうふうに思っただけであれば、広島に来る人が増えるということでもあります。そういう広島県を実現したいということでもあります。

10年後を見ますと2020年前後であります。このときにどうなっているのかということを考える上で、実は二つの大きな重要な変化があると考えています。人口減少・少子高齢化、それからグローバル化という二つの点です。

人口減少とか少子高齢化というのもよく言われる話ですので、耳にたこができるくらい聞いていて知っていることだと思うのですが、実際どれぐらいのインパクトがあるのかということをお考えすると、平成22年現在、これは昨年ですけれども、広島県の人口は284万人でした。実はこれはピークの平成10年から4万人既に減っております。平成47年、

今から 25 年後には 239 万人になります。つまり、この間、約 50 万の人口が減ることです。御存じのとおり 50 万人というと、広島県でいえば福山市ぐらいの規模であります。つまり、広島県から福山市の人口がいなくなってしまう。それぐらいのインパクトがあるわけです。

25 年後というのは、そんなに先のことじゃないと思うのです。逆に 25 年前を考えていただくと、25 年前生まれていないという人たちが今日は結構たくさん来ていただいているみたいですが、25 年前、大体バブルの始まるころです。そのころの記憶というのは、恐らくここにいらっしゃる方の大半は明確に、何月何日に晩飯は何を食べたかまでは覚えていないかもしれませんが、かなり鮮明に覚えていらっしゃるのではないかと思います。こんなことをやっていた、あんなことをやっていたと。それぐらいのスパンで 50 万人減ることなのです。これはものすごい変化であります。

そうなる何が困るかという、一つは、単純に働く人が減るわけです。生産年齢人口というのは特にピーク時から 30% 減少します。つまり、働き手が 3 割も減る。3 割も減ると何が起きるか。経済が縮小します。3 割、お金を稼ぐ人が減るわけですから、使うお金も減るわけです。今、小売などがどんどん広島の中でも減っていて、これから 3 割も減るわけです。これは大変なことなのです。

それから、高齢者は増えるわけです。ということは、高齢者の支援、これからもっともつとその費用が必要になってきますし、それを支える担い手というのは激減することになるわけです。これが非常に大きな変化です。

もう一つがグローバル化ということであり、グローバル化というのも、昔から聞くことだと思えます。ただ、今、進んでいますグローバル化というのは、従来のグローバル化、ないしは世界とのお付き合いというのとちょっと変わってきています。それはどういうことかと言いますと、昔から、戦後あるいは戦前もそうでしたけれども、日本が外に出て行ったわけです。最初は明治維新の後で、ヨーロッパの国々あるいはアメリカと競争するために日本が外に出て行った。日本の繊維製品を売ったりとか、あるいは、戦争のときにはアジアを占領していったりとか、そういうことがあったわけですが、戦後は世界中に日本の物を売っていく。アフリカの端のほうまで行って、ラジオを売ってくる、テレビを売ってくる。これが日本のグローバル化でした。ところが、今のグローバル化は、ここにあるように、日本がグローバル化しているのではないのです。アジアの国、世界の国がグローバル化しているのです。

今、申し上げたような日本のこれまで進めてきたグローバル化というのは、基本的にヨーロッパやアメリカとつき合うということだったわけです。ところが、今起きているグローバル化というのは、アジアやロシア、ブラジルなど、いわゆる新興国と呼ばれる国々が世界に出ていく。その世界の中で、日本はそういった国々と競争をしていかなければいけないという状況に直面している。新しいライバルがやってきたということです。昔は G 7 と

言ったわけです。G7がいろいろなものを決めていた。今はG20になっています。でもG20でも物事が決まらない。じゃあ、どこまで増やすのか。G四十幾つと、きりが無いぐらい、参加している国が増えているわけです。ということは、競争が増えているわけです。前は、数カ国を何とかしておけば、まあ大丈夫だと。今はとんでもない。世界の新興国が昔の日本みたいに必死になって自分たちの物を売り込もうとしているわけです。そういう競争が起きているということで、日本の中にもそういった新興国の人たちがどんどん入ってきている。これとどうつき合うかということが非常に重要になっているわけです。そういう意味ではものすごい時代の転換点になっています。

行政の世界で言えば、これも御存じのとおり、日本の借金に国と地方を合わせて1,000兆円に届くかというところなんです。1,000兆円というのは私も想像がつかないのですけれども、見たことももちろんありませんし、1,000兆円、GDPの2年分ですね。丸2年働いて、全部それを使っても借金が返せないぐらいになっている。そういう状況であります。これまでやっていたことをそのままやっていたのでは、とても立ち行かないという時代の転換点に立っています。

これまでやっていたことをそのままやるのでダメなら、どうするんだ。だから、新しいことをやる。答えは簡単なわけです。これまでやっていたこととちょっと違うことをやらないとダメなわけです。でも、これまでやったことというのは、要するに成功が約束されたこと、結果が分かること、これまでどおりのやり方を知っていること、そういうことじゃないですか。でも、新しいことというのは、どういうことか。結果が分からない。やり方も分からない。どうなるか分からないということです。つまり、どういうことかと言うと、リスクがあるということです。別の言い方をすると、失敗するかもしれない。失敗するかもしれないけれども、それを恐れてこれまでどおりやっていたのでは、先ほど言ったとおりに働き手は30%も減ってしまいます。どうするんですか。広島県も30%小さくなってくれたらいいんですよ。だけど、広島県は変わらないわけです。例えば水道も30%も減らしましょうというわけにもいかない。道路も30%減らすというわけにもいかない。今、高校の統合というのがいろいろなところで問題になっていますけれども、高校を一つ統合するだけで大問題なのです。子どもは昔の半分以下になるわけです。本当は半分になってもおかしくないのです。でも、それもできない。そうすると、どうするのかということを考えなければいけないのです。

そのために今、広島県として四つの分野に分けて挑戦というのを行っています。特にその中でも当面力を入れて進めようとしているのが、この「人づくり」、そして「新たな経済成長」という二つであります。

なぜこの二つか。経済がうまく回っていくと、それを通じて豊かな地域づくりにつながっていく。つまり、働く場所がなければ、働き手がいなければ地域づくりというのは非常に難しくなります。過疎というのはそういう問題です。働く場がなくなってくるので、若い

人がまちから出て行ってしまう。若い人がまちから出ていってしまうから働く場がなくなっていく。ある意味でいうと、こういう循環が起きている。これをどう断ち切るか。これを断ち切るためには、しっかりとした経済をつくって、そして、豊かな地域をつくる。働き手がいれば、地域の担い手もそこに残るということになるので、それがまた「安心な暮らしづくり」につながる。お医者様であるとか、あるいは学校であるとか、そういったものも維持できるわけです。

「人づくり」。これは何をやるにしても、人というのは基本であります。広島県の資源は何でしょうか。鉄が出るわけでもない。石油が出るわけではない。レアアースがとれるわけでもない。とれたら、とてもうれしいですけども、出ないですね。人しかないわけです。広島県が持っている資源というのは、人しかないわけです。オンリー資源です。この人というのをいかに活用していくか。いかにつくっていくか。これが大きな課題です。これがうまくいけば、こっちの三つも当然うまく回っていくということになるわけです。でも、人をつくっても働く場がなかったらいなくなってしまうよ。だから、この二つにまず重点を置いて、これがぐるぐる回る循環を新しくつくっていきたいということになります。

では、どんな人をつくるんでしょうかというところで、大きく二つのテーマがあります。一つは、先ほどグローバル化ということを申し上げましたけれども、今、我々が言っているグローバル化というのは、決して商社の社員のようになって、世界中かけまわってビジネスをやってくるというような意味ではありません。むしろ、これから例えば中国の人とか、あるいはタイの人とかが広島にもやってくるわけです。そういった人がやってきたときに、つき合いにくいとか、そうではなくて、「こんにちは」と普通につき合える。普通にお話ができる。普通に受け入れることができる。これが本当のグローバル化だと思います。これが地域に必要なグローバル化。これは大企業だけの問題ではないのです。中小企業でも、従来は売っていた先が日本の企業だったかもしれませんが、今は先ほどのように世界の国々が競争するようになっていきますから、いつの間にか買っている先のお客さんが外国人かもしれないのです。そうすると、そことも普通に商売ができなければいけない。そういう相手を受け入れることができる感覚を持った人、そういった人をつくらなければいけない。

もう一つはイノベーションということです。イノベーションというのは何かといいますと、いろいろ定義はありますけれども、新しいアイデアで、あるいは新しいアイデアを組み合わせて、新しい価値を生んでいくこと。非常に簡単に言うとそういうことです。新しい価値を生むということです。それができる人材。つまり、先ほども申し上げたように、これまでやってきたことをそのままやる、そのまま正直にずっと同じことを繰り返すことができるという人ではなくて、新しいものを生むことができる、そういった人をつくっていく。もちろん全員が全員そういうふうになりましようといっているわけではありません。

そういう人がこれからもっと必要だということでもあります。そういう人材を育てていくということが一つの鍵だと思います。そのためには、やはり挑戦をしていかなければいけません。

これを今、小学生ぐらいから社会人まで取り組もうとしています。ここにあるのは、社会人と大学生、高校生の例が書いてあります。高校生では、今、県立学校が80数校ありますけれども、すべての高校で外国の学校と姉妹縁組を結んで、そして、相互交流をします。交換留学もして、相手の国に行って経験してこよう。そういうことをやっています。日本に来る留学生も倍増しようということもやっています。そして、せっかく来てもらった留学生に広島に就職してもらおう。これも倍増しようということをやっています。それから、中小企業では、新しいイノベーションを担える人材を育成する。そのために年間400万円を限度に、こういった研修を受けさせる企業に補助金を出しましょうということをやっています。それを50人とか80人ぐらい毎年出していくというようなことをやろうとしています。

それから経済成長。もう経済的な豊かさ、物の豊かさはいいですよという方がいらっしやるのですけれども、でも、そうは言っても、学校を維持するにも、病院を維持するにもお金が要るわけです。例えば呉、あるいは江田島の場合でも、お医者様が不足している地域というのは深刻だと思います。例えば島で、お医者様に、普通に広島市内と同じようにそこにいていただいたら、商売ベースでいえば患者さんが少ないから商売が成り立たない。だから、いなくなるわけです。成り立てばいるのです。成り立たないから、いなくなる。成り立たないけど、いてくださいというためには、どうしなければいけないか。やっぱりある程度経済的な支援をしなければいけない。経済的な支援はいろいろあります。例えば病院の設備を用意してあげるとか、直接給料をあげるとか、それはいろいろありますけれども、いずれにしても何らかのお金が要るわけです。ですから、決してお金のためのお金稼ぎをしましょうと言っているわけではなくて、やはり安心な暮らしを維持していくためには、ある程度のお金は要る。お財布は要るということでもあります。それを推進する。そのためにいろいろなことをやっています。昨年ファンドということでもいろいろ話題になりましたけれども、新しい価値を生んでいく企業をどんどん育てていこう。そういう「ひろしまイノベーション推進機構」に100億円ほど投入して、60億円は企業、40億円は県が出しますけれども、100億円を使ってそういった企業をどんどんつくっていく。あるいは、自動車や造船に加えて、新しい産業の固まりをつくっていかうであるとか、あるいは、アジアの市場を取りに行こう。そういったことをやっています。

そして「安心な暮らしづくり」、これももちろん進めてまいります。地域のお医者様の確保、あるいは地域からでも緊急搬送ができるようなドクターヘリ、あるいは子育て支援、あるいはがん対策、こういったことも進めます。

それから、「地域づくり」でいえば、お聞きになったことがあると思いますけれども「瀬

戸内海の道構想」。瀬戸内海をもっともっと皆さんに知っていただいて、そして、来ていただく。あるいは中山間地域の観光、そして、過疎地域の自立を促すといったようなこと、こういったことを進めています。

最後に、まとめになりますけれども、これから10年、何が必要か。新しい時代をつくっていかねばいけない、新しい挑戦をしていかねばいけない。そのときに「強み」を活かしていく。我々が今持っている強いものがあります。ただ、強いものを強いものと認識していないかもしれない。それも含めた強みになるものを掘り出して、それを活かして、そして、これまでやったことのない新しいこと、あるいは新しいやり方で新しい価値を生んでいく。そういったことをこの10年間、一生懸命続けていかねばいけないと思います。逆に言うと、それを続けていけば、いつの間にか広島県というのは大きく変わっていくと思います。

それを実際に進めるのは、実は県民の皆さんお一人おひとりなのです。広島県を変えるのは、決して行政ではありません。行政というのは、その後押しはできます。例えば今の経済の話にしても、広島県が物を売るわけではありません。先月、中国に行って環境関連機器というのをかなり売り込んできましたけれども、それを売るのは県ではないです。やっぱり環境機器、あるいは環境技術を持っている企業さんが売らなければいけないわけです。医療を守ることも、県もいろいろやります。お医者さんの配置等々やります。でも、実際に医療サービスを提供するのはお医者さんや、看護師さんなど、その皆さん以外のなものでもないわけです。それぞれが、それぞれの分野でこういった挑戦を行うことによって、本当の意味で広島県というのは変わっていくわけであります。

そういう意味で、我々全員の肩に、そして腕に、20年後、30年後の広島の姿、子どもたちがどんな広島県で育っていくことができるか、というのは全員の腕にかかっているということであります。全員が力を合わせて進んでいけば、すばらしい広島県ができる。役所としての広島県としてはそれをリードして、後押しをして進んでいきたいというふうに考えております。

ということで、「ひろしま未来チャレンジビジョン」の御紹介をさせていただきました。どうも御清聴ありがとうございました。

(司 会)

湯崎知事、ありがとうございました。新しい広島県づくりには、一人ひとりの県民の挑戦が大事であるということがよく分かりました。私たち広島県職員もまた、県民の皆さんと一緒に挑戦を続けたいと思っております。

さて、湯崎知事への質問、御意見でございますけれども、次の事例発表が終了した後に併せて行いたいと思います。どうか皆様の積極的な御質問、御意見をお待ちしております。どうかよろしく願いいたします。

事例発表

(司 会)

それでは、これから事例発表に移りたいと思います。湯崎知事にはこの事例発表のコーディネーターを務めていただきます。湯崎知事、どうかよろしく願いいたします。

(知 事)

ありがとうございます。それでは、今日発表をしていただく3名の方は、先ほど御紹介がありましたけれども、それぞれの地域においていろいろな活動、まさに挑戦を行っている方です。

初めは、呉市の井上孝子さんであります。井上さんは、NPO法人呉サポートセンターくれシェンドの事務局長としてボランティアの活動支援をしていらっしゃいます。また、「いのちのパネル展」の開催、動物愛護の取組を進めるなど、安心な暮らしづくりへの挑戦をいただいております。

今日の発表テーマは、「『まち市民』を見つけよう！『まち市民』を繋げよう！」であります。それでは井上さん、どうぞよろしく願いいたします。

(事例発表者(井上))

よろしく願いします。皆さん、こんにちは。私、NPO法人くれシェンドの井上孝子と申します。このたびは活動報告の場をいただきましてありがとうございます。今日は私の所属しているくれシェンドの説明と、私が参加している市民活動の「いのちのパネル展」及び「一箱古本市」の報告をさせていただきます。

それでは、パワーポイントで説明をいたします。くれシェンドは、呉地区で活動するNPO団体やボランティアなどの交流の場として11年前に生まれました。主な活動は、中間支援センターの運営と呉市周辺のまちづくり活動への参加です。くれシェンドの活動は、ここ数年の事例としてこのような内容があります。

くれシェンドに集まった皆さんは、団体の代表や会社員、主婦、学生、行政職員、経営者など、仕事も立場も様々で、それぞれ関心のある分野が違います。まちづくり、福祉、文化活動、環境保全、子どもの健全育成など多岐にわたっています。つまり、くれシェンドは、団体というよりも個性ある個人が集った仕組みです。

ここで、くれシェンドの基盤になっている「まち市民」の説明をしたいと思います。「まち市民」、くれシェンドの活動のキーワードです。様々な活動をしている私たちのNPOの説明をするときに、この「まち市民」という言葉を用いています。

私たちにできること。私たちのまちにはたくさんの市民がいます。その中でも、まちの課題について気づいた人、考えた人、動いた人を「まち市民」と定義しています。まずは、「まち市民」を見つけて、「まち市民」が会って、お互いの存在を知ることが大切です。「まち市民」はそれぞれに目的や思いを持っています。矢印であらわしてみました。この矢印は情熱ととらえてもらっていいかもしれません。人それぞれに情熱の方向も強さも違います。同じ方向の人たちが集まれば、市民活動団体やNPO団体へ成長していく可能性を持っています。しかし、ときには「まち市民」の意見が対立することがあります。例えば自然環境を守ろうと訴えている人がいます。そこに工場や道路の建設で経済発展と考えている「まち市民」も存在します。お互いは対立してしまうように考えられます。そこで「みんなのまち」、例えば呉市を大きな円として考えてみましょう。この「みんなのまち」に「まち市民」を並べてみます。例えば先ほどの二人を矢印の方向に合わせて配置し、それぞれの矢印に適した場所に「まち市民」を配置していきます。そして、「まち市民」が活動を始めると、まちはぐんぐん回転していきます。先ほどの対立する二人もまちをよくしたいという気持ちは同じです。つまり、「まち市民」を適材適所でコーディネートすることが必要になってきます。この円が回転する遠心力と、同時に上向きみんなのまちをよくしたいという力が働き、円はさらに成長していきます。この上向きの力は明日、未来への軸です。みんなのまちは楽しく、すてきなまちに成長していくに違いありません。くれシェンドのまちづくりを支援する活動というのは、この役割を考えて続けています。

「まち市民」の事例として、「いのちのパネル展」についてお話をいたします。皆さんは動物愛護センターを知っていますか。呉市では「くれアニマルパーク」の愛称で、呉市動物愛護センターがあります。動物愛護センターでは、飼い主の事情で飼えなくなったり、通報によって捕獲された犬や猫が収容され、その多くは殺処分という最後をたどります。動物愛護センターについて詳しく知らないという人もいらっしゃると思います。実は私もそうでした。そんな私がなぜ動物愛護センターのボランティアに入り、動物の命の大切を伝えるパネル展を開催するようになったかという、それは私の友人がきっかけでした。この犬はセンターに収容されていた「アイちゃん」という犬です。私の友人は3年前の春、偶然センターに立ち寄り、このアイちゃんに出会います。友人はこんなに人懐っこく、かわいい犬までが飼い主に見捨てられ、しかも、引き取り手がない場合は処分されてしまうという現実にショックを受けます。アイちゃんを気に掛けている友人をどうにか励ましたいと思った私は、呉市動物愛護センターについて調べました。そこで、センターに週末にボランティアに入っていた団体があることを知り、そのメンバーの1人が運営をしていた「あなたのお家はどこですか？」というブログがあることも知ります。このブログは、呉市動物愛護センターの収容動物と、広島県内のペットの迷子・保護、譲渡の情報を知らせるブログです。このことがきっかけで、私と友人は呉市民としてボランティアに参加することになります。

私は初めてボランティアに入ったときの衝撃を今も忘れることはできません。繁殖のシーズンということもあり、人によって連れてこられた、または捕獲された犬や猫であふれていました。その状況を見たときに、亡くなっていく命への悲しみ以上に、私が住むまちが引き起こしている現状に怒りを覚えました。どんな事情があるにせよ、人の手によって連れてこられたのです。つまり、まちの問題であり、課題だと感じたのです。世の中には環境、教育、介護、人権など社会問題であふれています。その多くの社会問題は同じ根っこにつながっています。それは「人の心根」です。私は動物問題を通じて、人の心根に伝えたいと思いました。そのときの思いをネット上の日記に書いたところ、その現状を知らせるお手伝いをしますよと、思いに共感してくださる人があられ、つながっていき、4ヵ月後には「いのちのパネル展」が誕生しました。これは、呉市動物愛護センターの業務の内容と、収容された動物たちの現状をお伝えし、動物の命の大切さを伝える48枚のパネルです。初めての開催は3年前の9月でした。呉市内では6ヵ所の市民センターや公民館で開催させていただきました。そして、予想外だったのは、呉市外からのパネルの貸し出しの要望が3年たった今も続いているということです。広島市をはじめとして、三原、愛知、島根、山口、福山など合計27ヵ所での展示が行われています。いのちのパネル展実行委員会の構成は、行政、市民、活動団体、NPO、企業、市民ボランティアが参加をしている共同型の活動となっています。しかし、それは意図していたわけではありません。最初の始まりは、一人の友人のこの現状をどうにかしたいという思いからでした。なお、呉市民で立ち上げた「くれアニマルボランティアの会」の活動については、今月号発行の呉市政だよりのわがまちバンザイ！に特集されておりますので見てください。呉市動物愛護センターに市民がボランティアに入ってから収容動物の譲渡率は上がり、殺処分数は減っています。これからも私たちは人の心根に伝えていく活動を続けていきます。

もう一つ、一箱古本市についてお話しします。一箱古本市は、2005年に東京から始まった市民活動のイベントです。一人みかん箱一箱分に思い思いの本を詰め、お店を開くという方法で全国各地に広がっています。呉市でも4月に開催されました。25名の店主さんが集まり、コンサートや紙芝居、絵本の読み聞かせも行い、来場者の皆さんと楽しい時間を共有しました。主催は呉ブックストリート実行委員会です。この会も一人の女性の思いに共感した人たちによって構成されています。その女性は、3年前から呉のまちを取材して「甘茶手帖」というフリーペーパーをつくり、配布をしている黒星さんです。呉のまちに本の文化を呼び戻したいという思いを持っています。来月には一箱古本市の第2回が開催されますが、その前に宣伝も兼ねて、全国のフリーペーパーの展示会をしたいねという話になりました。そして、その企画に参加をしてくださったのが、江田島市で5年前から「Bridge」というフリーペーパーを発行されている岡本さん御夫妻です。甘茶手帖さんとBridgeさんがタッグを組んで実現した「かみフェス」というイベント、先月開催しました。フリーペーパー大好きという人たちが、滋賀、福岡、愛媛、徳島、岡山などからも訪れ、

200名を超える人たちが来場されました。好きなことへの求心力、好きという思いが作りあげていく力を再確認したイベントとなりました。自分のまちを大好きなまちにするためのヒントは、最初の「まち市民」の説明でお話をしたように、心の中にある好きなことへの情熱に気づき、同じ思いの人たちとつながり、一緒に楽しむことかもしれません。今日の事例報告が皆様の参考になれば幸いです。

なお、お手元にあるわがまち恋文コンテストのチラシは、自分のまちが好きという情熱の発見のきっかけになるよう私たちが企画したものです。皆様の熱烈なラブレターをお待ちしております。ありがとうございました。

（知 事）

井上さん、どうもありがとうございました。私の中で気づいたことが何点かあるのですが、一つが、スライドの中で「まち市民」の「気づく、考える、動く」というのがあるのです。「気づく、考える、動く」、つまり、行動するということですね。まさに気づくというのはたくさんの方がされます。気づいただけではなくて、それをどうしようかと考える。もう一歩先に出る。さらに、それで動く。さらにもう一歩動く。この誰か動く人がいたら、考えている人が私も動いてみようかなと動いていく。それが輪になって広がっていく。そういうイメージだと思うのですが、本当にそれをくれシェンドでは実行されて、それが例えば命を何とかしたいということで「いのちのパネル展」につながったりとか、あるいは、一箱古本市につながったりとか、そういったちょっとしたことがとても「豊かなまちづくり」につながっているのではないかと思います。

実は県庁でも、今は成果主義という話をしていまして、つまり、行政も成果を生まなければいけない。予算を使って終わりではなくて、その予算を使った結果が何か。何を生んでいるのかという成果を問いましょうというふうに言っているのです。成果というのはどうやって出るかという、一つは考える、そして、行動する。考えて行動する、この掛け算ですという話を内部でもしているところなのです。それをまさに市民のお立場でNPOとして実践されているということで、私も本当に共感させていただきました。これからも頑張っってよりよい呉市になるようにしていただければと思います。ありがとうございました。もう一度大きな拍手をお願いいたします。

それでは続きまして、呉市の岸菜宝治さん、お願いいたします。岸菜さんは下蒲刈町、下島青年会の皆様とともに地域に伝わる獅子舞を復活されたということでもあります。岸菜さんは、地域の祭りや市内の福祉施設などでの獅子舞の公演などを通じて、地域の伝統文化の伝承と地域の活性化に取り組んで豊かな地域づくりに挑戦をされているということでもあります。発表のテーマは「地域に恩返し！」です。それでは岸菜さん、よろしく願いいたします。

(事例発表者 (岸菜))

ただいま紹介してもらった下島青年会の岸菜です。よろしく申し上げます。先ほどは退出してすみません。

まず初めに、活動の紹介の前に下蒲刈町の紹介をします。下蒲刈町は、平成 15 年に安芸郡から呉市に合併をしました。周囲 16 km で、海に囲まれた自然豊かなまちです。

まず初めに、青年会が 1 年を通して参加する主な行事を発表します。

6 月のクリーン作業では、海開きの 1 週間前に町民の方たちと一緒にまちの掃除を行います。

8 月の盆踊りでは、地域を盛り上げるため、出店を出したり、仮装をして 3 日間踊りに参加します。

僕たちの地区では、秋祭りが 9 月と 10 月にあるのですが、祭りの 1 週間前に鬼の衣装、獅子舞の衣装を直したりしています。9 月の秋祭りでは、各神社に入ろうとする神輿を、太鼓がぶつかりあって止めるというけんか祭りをしています。本当に迫力がある祭りなので、一度は見に来てください。知事、ちょうど明日が祭りなので見に来てください。

町民体育大会ではいろいろな種目に参加したり、当日仕事で来られない保育所の児童の親の代わりに参加したりもしています。

10 月の朝鮮通信使再現行列では、男性が神輿を担ぎ、女性は民族衣装のチマチョゴリを着て参加しています。

10 月の秋祭りでは、僕が小さいころには相撲大会やカラオケ大会をしていたのですが、一度祭り自体がなくなってしまいました。メンバーたちが何かできないかと話し合い、ここで獅子舞をしようと決めました。毎週水曜日に仕事が終わった後、練習をしています。実はこの獅子舞も 20 年ぐらい前に途絶えていて、知っている人も少なく、お年寄りの話を聞いたり、資料を調べたり、自分たちでアレンジを入れ、今の形ができました。今ではお年寄りが手を合わせて「ありがとう」と言ってくれる言葉が本当にメンバーの力となっています。

11 月の町民文化祭にも獅子舞を披露させてもらっています。

成人式では、平成 21 年から、呉市から地域で成人式になり、ここでも新成人の門出を祝って獅子舞をしています。

成人式の後、隣の施設に飛び込み訪問をして、お年寄りにも喜んでもらっています。

とんどでは、メンバーの男性はとんどを作成し、女性は竹にお餅をさす作業をしています。

今、紹介したのが 1 年間の主な行事です。1 年間の行事のほかに、公演の依頼が急に来ることもあります。例えば老人ホームの慰問や湯来町のホテルまつりに出演したり、メンバーの結婚式にも獅子舞をしたりしています。いろいろなところに行くのには理由があって、下蒲刈町のことを知ってもらいたいという気持ちと、元は島の人で、島外に出られた

人に少しでも帰ってもらいたいという気持ちがあります。少しでも帰ってもらうことで、一人暮らしのお年寄りに少しでも喜んでもらいたいという気持ちがあります。

今後のスケジュールは、10月2日に朝鮮通信使再現行例、10月16日に庄原のやまびこ祭、10月22日に見戸代・空城祭があります。

今後の、悩みは会員の減少です。本当は青年会は高校生からなのですが、練習に小さい子どもや中学生が見に来てもらうことで、青年会の活動を見てもらい、次の世代の青年会に続けていければと思っています。その新しいメンバーたちと今後、いま紹介したような活動を通し、地域への恩返しをしていきたいと思っています。以上です。ありがとうございました。

(知 事)

岸菜さん、ありがとうございました。本当に大人気の獅子舞になってきて、各地から引き合いというか、出演依頼が来るということで本当に素晴らしいと思います。あと、お年寄りの「ありがとう」というのが、やっぱりいいですね。お年寄りが今、割合としては増えていらっしゃる地域だと思うのですが、そういう若い人の活動が少しでも地域全体の幸せ、笑顔と幸せにつながっているということがよく分かりました。

挑戦というのは、やっぱりすぐにはできないことではないと思います。若い人を集めて、実際に仕事も忙しいのに、毎週水曜日に練習をして、そういったことも本当に、すぐにはできないことではない。皆さんの情熱が集まって、先ほどの情熱と同じですね。情熱が集まって、ある方向に一緒に向けて、そして、活動していく。それが結実した結果だと思います。挑戦というのは、何かものすごく大きなことだけではなくて、やっぱり一つ一つ、こうやって地域を幸せにしていく。そのための努力というのも大変重要な挑戦だと思います。本当にありがとうございました。もう一度大きな拍手をお願いいたします。

それでは、最後の事例発表であります。江田島市の空久保求さんです。空久保さんは、生産者、行政と連携したオリーブを中心とした地域活性化の取組や、異業種間連携や行政と連携した観光振興や定住促進など、新たな経済成長に挑戦をいただいています。発表テーマは、「オリーブを中心とした耕作放棄地対策と地域活性化の取組」です。空久保さん、どうぞよろしくをお願いいたします。

(事例発表者 (空久保))

皆様、ただいま御紹介にあずかりました江田島市沖美町から来ました空久保でございます。広島県知事湯崎様におかれましては、このような機会を与えていただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、オリーブを中心とした耕作放棄地対策と地域活性化の取組についてお話をさせていただきます。

江田島市は、瀬戸内海に浮かぶ島の中で4番目に大きく、全土周辺は透明感あふれる海水に囲まれ、沿岸線は変化に富み、自然の美しさに思わず心を奪われるほど魅力的な島でございます。江田島市は、広島から海上で約7.5km、呉より6kmの位置にあり、面積は100.97km²でございます。人口は2万7,018人、世帯数は1万1,463世帯でございます。呉市とは音戸大橋、早瀬大橋の両架橋により実質的には陸続きとなっております。

風光明媚なこの島は、日照時間が長く、温暖な気候で、夕日の沈む状況は日本一であろうと私は思っております。陀峯山から見た温暖な気候で、自然豊かな島、江田島市でございます。沖美から見た夕日の沈む状況は、日本一でございます。

これまで江田島市は、特に農業・漁業を基盤に、そして、商業・工業で栄えたまちでしたが、最近では少子高齢化、さらに過疎化が急激に進み、平成22年国勢調査の結果（速報値）では、広島県内の人口減少数の大きい市町の5位以内に入るほどになっております。この表にありますように、江田島市は広島県内で人口減少率の高い市町の3位で、減少率は9.8%でございます。

このような厳しい時代を乗り越え、少しでも江田島市の経済活性化が図ればとの思いで、平成21年に江田島市建設業協会を主体とし、海生交流都市開発協議会を設立し、国土交通省総合政策局建設市場整備課による建設業と地域の元気回復助成事業第2次募集に、事業名「江田島フィールドミュージアムづくり」で応募したところ、選定されました。この組織表は、平成21年度、国土交通省「建設業と地域の元気回復助成事業」第2次募集に、事業名「江田島フィールドミュージアムづくり」で応募し、選定されたときの海生交流都市開発協議会の組織図でございます。

この事業の概要といたしまして、江田島市全土を博物館に見立て、江田島市の自然環境や歴史・文化、農業、漁業などを生かしたレクリエーションの場や情報拠点づくり、イベント開催などの調査研究及び先行事業の試行的実施をすることでございます。

そこで、江田島市の陸の玄関である大君地区に仮称「江田島ふるさと市場」を協議会の構成員のほか、テント15張の出店者とともに、平成22年3月20日にオープンし、9月20日までの半年間に4万2,100人の方々の御来場をいただきました。江田島フィールドミュージアムづくり事業内の先行事業の試行的実施として、陸の玄関大君地区に海の道「江田島ふるさと市場」の3月20日のオープンの状況でございます。

販売品目は、地元の特産品、農産物、魚介類を主としており、この事業によって、江田島市の農業・漁業の再生、また、生産意欲を大事にし、後継者や担い手不足の解消、耕作放棄地対策になるものと推察いたしました。江田島市には、本格的な道の駅、海の駅が必要であることを確信し、江田島ふるさと市場開催期間中における日ごとの集客数、売上高、アンケートの結果等、すべてのデータを江田島市長に手渡し、この事業の本格化、早期実現を切にお願いいたしているところでございます。江田島市ふるさと市場の最終日の餅まきの状況でございます。

県知事湯崎様には、平成 22 年度の宝さがしという企画で、この江田島ふるさと市場に視察にお越しいただきました。地元特産品や農産物、魚介類、来場者の状況などを御覧いただき、そして、当地より自転車で出発、この島のすばらしい景観を眺めながら、次の目的地に着かれたことと思います。そのとき私が案内させていただきましたが、不手際等あったことをお詫び申し上げます。また、その節は本当にありがとうございました。

話は変わりますが、先ほど申し上げましたように、この江田島市は少子高齢化により過疎化が急激に進んでおります。耕作放棄地が増加し、有害鳥獣による被害が多発、営農はもとより、観光資源まで、悪化するばかりでなく、居住環境をも脅かす問題まで発展いたしております。よって、生産者の高齢化、後継者や担い手不足、耕作放棄地の増加、過疎化対策等々、多くの深刻な課題解決策といたしまして、オリーブ振興に官民一体となって取り組んでいるところでございます。この島は温暖な気候で日照時間が長く、適度な雨量があります。オリーブ栽培には適した立地条件であり、栽培が比較的容易で、取り組みやすいと思われるため、平成 23 年 6 月 20 日、江田島市オリーブ振興協議会設立総会を開催し、議決されて設立いたしました。江田島オリーブ振興協議会の構成は、農業参入企業者三者、及び呉農業協同組合、江田島市農業委員会、江田島市、アドバイザーといたしまして広島県西部農業技術指導所、そして広島県西部農林水産事務所呉農林事業所農村振興課でございます。この組織は、官民一体となって、新たな取組とするオリーブによる耕作放棄地対策といたしまして、平成 23 年 6 月 20 日設立した「江田島オリーブ振興協議会」の組織図でございます。

オリーブ振興の取組といたしまして、市民が興味を持ち、実業できるよう、平成 23 年度、2,300 本の苗木の配布。平成 24 年度も 1,500 本程度の苗木の配布を予定いたしております。さらに、栽培研究会の実施や、現在 3 ヶ所の展示圃に加えて、新たにもう 1 ヶ所の展示圃を計画するとともに、土地改良事業といたしまして、平成 23 年度準備後、平成 24 年度、25 年度で造成工事を終了して、栽培面積 7 ヘクタールのオリーブ園の完成を見込んでいるところでございます。このオリーブ栽培面積は順次増やしていく予定で、目標を平成 25 年度 9 ヘクタール、平成 30 年度 25 ヘクタール、平成 40 年度 40 ヘクタールと計画をいたしております。これにより耕作放棄地が平成 25 年度には 2 ヘクタール、平成 30 年度には 16 ヘクタール、平成 40 年度には 36 ヘクタール程度解消される計画といたしております。この画面は江田島市オリーブ振興協議会の目的と事業でございます。

それを実現するために、オリーブに関する生産の販売技術の向上、加工に関する調査・研究を関係者が相互に連携し、強力で推進し、江田島市全土をオリーブのまちに、江田島ブランドを確立するよう試行錯誤いたしているところでございます。その画面はオリーブ振興の取組といたしまして、市民が興味を持ち、実業できるよう、その取組の一環といたしまして、3 ヶ所の展示圃でございます。

この画面は、小学生が体験学習をしている状況でございます。

この画面は、柿浦小学校校庭に、樹齢 50 年から 60 年の特例の 1 本のオリーブの木でございます。この下でも研修学習をやっております。

右側でございますが、一般向けの定植の説明会の状況でございます。左側が展示圃の 1 カ所柿浦地区での柿浦小学校全校生徒によるオリーブ定植の状況でございます。

次に、江田島市沖美町についてでございますが、この地域は町役場の廃止、保育所、小中学校の廃校、各機関の廃止・縮小により、若者の流出や空き家の増加、農地の荒廃と地域社会の崩壊現象が進み、過疎化が急激に進行いたしております。これは町村合併によって、中心地域と周辺地域の格差が大きく広がったことによる合併のマイナスの現象であろうと思われまふ。このような状況でございますので、有志 8 名によりいちじく友の会を設立し、まず、1 ヘクタールの荒廃農地の復活、活用して昔の田園風景の再現を図るため、いちじくの苗を定植いたしました。今後の目標といたしまして、3 ヘクタールのいちじく園を完成させることとでございます。オリーブは採算ベースに乗るまでが 8 年から 10 年ぐらいかかります。その点、いちじくは 2 年から 3 年で出荷できるため、オリーブといちじくを併用することにより、より一層早いオリーブのまちになるものと確信をいたしております。よって、この地域がモデルケースになるよう頑張っているところでございます。この画面でございますが、いちじく友の会により 1 ヘクタールの荒廃農地を活用して、いちじくの苗を定植する状況でございます。

いちじくの苗を定植し、その手入れをしている状況でございます。

それとともに、この地域のイベントといたしまして、ちびっこ花田植えでございます。ちびっこたちが田んぼの土の中に入り、土のおいを感じ、土に親しみ、苗を植える喜びを肌で感じていただき、さらには幼きころの思い出と郷土をいつまでもいつまでも愛し、忘れないように、また、遠路よりのちびっこはこの感動をいつまでも胸に秘めていただき、ときには思い出して、この風光明媚な沖美町を訪ねていただくことを願って、ちびっこ花田植えを行っております。

耕作放棄地の解消や雇用促進を図ることにより、若い人が希望を持って栽培でき、なおかつ、安定した収入を得られる仕組みづくりをすることがねらいでございます。これを起爆剤といたしまして、江田島市の活力あるまちづくりをしたいものでございます。

この画面は、郷土を忘れないように、平成 20 年より、このちびっこ花田植えを行っております。

最後になりましたが、観光について、江田島市には観光の宝がございます。それは海上自衛隊第 1 術科学校でございます。これがその術科学校でございます。これまでは海上自衛隊第 1 術科学校を点で結んだ観光でございましたが、術科学校を起点にし、オリーブ園や道の駅 海の駅構想の実現、美しい夕日、自然の美しさや歴史、文化、農業、漁業等により滞在型の観光のまちにしたいものでございます。どうかよろしく願いいたします。どうも御清聴ありがとうございました。

(知 事)

空久保さん、どうもありがとうございました。観光の御紹介も含めて盛りだくさんのお話をいただいたのですけれども、オリーブが商業ベースというか、採算ベースに乗るまで8年から10年かかるということで、これは本当に大変な挑戦だと思うのです。しかも、新しい特産物をつくる。これはゼロからつくるわけです。ところが、何をもってオリーブかという、耕作放棄地という土地があって、それから豊かな太陽の恵みがあって、そして手入れがかからないという、こういう特徴を生かした、まさに江田島市の特徴、今ある弱み、耕作放棄地というのは普通に考えたら弱みですよ。これを強みに変えていく。今、小豆島にオリーブというだけで一体何人の人が来ているのかということもありますし、イメージのいいものですよね。だから、この弱みを強みに変えていく。そして、挑戦をして、8年、10年かかって新しいものをつくっていく。本当にすばらしい取組ではないかと思えます。

昨年の夏、お邪魔をしたときに不手際などとんでもありません。今のお話でお分かりのとおり、きっちり全部回っていただいて、大変丁寧に御説明いただきました。本当にありがとうございました。もう一度大きな拍手をお願いいたします。

(司 会)

発表者の皆さん、本当にありがとうございました。

意見交換

(司 会)

それでは、湯崎知事の未来チャレンジビジョンの発表と、3人の皆様の取組の発表につきまして、皆様から質問と御意見をいただきたいと思います。

なお、本日の懇談会は呉市と江田島市での取組事例をお聞きして、この地域を中心とした新たな広島県づくりを皆様とともに考えていこうというものでございます。このため、質問と意見につきましては、この趣旨と、これまでの発表を踏まえた内容のものにいただきたいと思います。どうかよろしく御協力をお願いいたします。

また、質問に際しましては、最初にお住まい、またはお勤めの市町の名前と、御質問者のお名前、どなたに対する御質問か御意見かをお伝えをお願いいたします。

それでは、皆様から積極的な質問、御意見、求めたいと思います。どなたかございませんでしょうか。誰も手が挙がりませんね。挑戦でございます。どうぞ、お願いいたします。

(質問者A)

安浦町に住んでおりますAと申します。それこそ、耕作放棄地を皆さん挙げて新たに開墾されて、オリーブを植えていかれるということで、非常に感激いたしておりますけれども、江田島市に入りましたら、江田島市だけではなくて、竹が随分侵食して、これを何とかしなければということで、市のほうも取り組んでおられるみたいな感じはするのですが、こういったいわゆる耕作放棄地の中にそういった竹もかなり入り込んでいるのではないかと思います。そういった次の活用とかいうのは考えておられないですか。整理とか。

(空久保)

いやいや、このオリーブの定植というのは、耕作放棄地を目的としているわけです。今は23年度で、24年、25年度で新しいところを造成して、新たに7ヘクタールをつくる予定にしております。完成する予定にしております。その後は、荒廃した農地をオリーブ園に変えていくということが私たちの目的でございます。だから、竹の生えたところも対象となっております。

(質問者A)

それから、とにかくイノシシの被害がひどくて、これはオリーブも将来的にまたねらわれるのではないかという感じがしますが。

(空久保)

いや、今のところはオリーブには被害がないと聞いているのですよ。オリーブの実を食べるとかいうことは。ミミズは食べに来ますよ。ですが、今のところ、そういうことは聞いておりません。

(司 会)

ありがとうございました。そのほかの方、せっかくの機会でございますので、御意見ございませんか。そちらの方、マイクをお願いいたします。

(質問者B)

呉市の第6地区で、まちづくり委員会のお手伝いをさせてもらっていますBといいます。実は岸菜さんと空久保さんに共通的な質問なのですけれども、下蒲刈の場合は後継ぎがないという話が出ました。これは呉市のまちの中でも共通な悩みだと思うのですけれども、イベントをやっておられまして、今初めて私も見させていただいたのですけれども、ああいうイベントを例えば呉市のある地区とタイアップして、交流ができるきっかけづくりができれば、まちの子もそちらに行けるし、蒲刈の子も、こちらに来ることは別として、要

は、呉にないものがあちらに行けば見られるというPR，そういうきっかけをつくっていただければと思うのです。特に今回御手洗まで行けるルートもございますので，そういうアピールをもう少ししていただければ，呉市の各地区がございますので，後継ぎをつくることがお互いにできるのではないかと思いますのですけれども，そこらを検討していただければと思います。簡単に我々もいつでも行けるような状態があるのかどうか。そこらも教えていただきたいです。

江田島市さんも一緒ですね。そういう共通の悩みがあるのではないかと思いますけれども，物事を長く続けるためには，分断されるといけませんから，誰か後継者を，という点についてどう考えておられるかも含めて，回答していただきたいと思います。

(岸 菜)

僕たちは，呉市の下蒲刈町のホームページのほうにも僕たちの活動を今，載せてもらっているところです。今後も，いろいろな地区の方と，いろいろなイベントに出てもらって，もっと下蒲刈町のことを知ってもらいたいと考えています。

(質問者B)

江田島市の空久保さんに対して，要は，江田島市の中だけで万歳するのではなくて，呉のほうからも来てみいやと，そういうPRができるきっかけを考えておられるのかどうか。

今，ここで聞いた限りでは，確かにここにおられる方は，多分皆さん分かって帰ると思うのですが，ここで聞いていない人に対してどういうPRをされるのか。

(空久保)

今のオリーブの件でしょうか。それについての観光ですか。

(質問者B)

そうです。

(空久保)

これから，計画しているところです。ホームページ等にも載せていますが，これからのPRは考えていきます。現在植えているのは，定植して，育苗しております。そして，今の造成が済んで，また定植する予定でございます。そうして，実がなるのに併せて，またPR等々はしていきます。以上でございます。

(質問者B)

分かりました。実は，私の地区の小学校が，4年生以上になると，地区の地図づくりに

授業で歩くのです。そういう時間を利用して、そういうところに行けたらいいとか、ちょっと考えましたので、もしそういうことができましたら協力させてください。

(空久保)

是非来てください。お待ちしております。

(知 事)

ありがとうございます。後ほどBさんと岸菜さん、空久保さん、名刺交換をしていただきまして、これから連絡を取り合うということで、こういった機会はまさにその交流であるとかネットワークを拡大することが一つの目的でありますので、是非それはお願いしたいと思います。

ネットワークのことについて説明してもらえますか。

(司 会)

ネットワークについて御説明させていただきます。現在、お手元に加入の申込書をお配りしているのですが、せっかくこうして宝さがしで知事が8ヵ所回っております。こうした中で、いろいろな挑戦をしておられる方のいろいろな経験であるとか、いろいろな情熱ですね。そういったものを共有したり、それから経験を新しい取組に発展させるためのネットワークを今つくろうとしております。今、既に70名ぐらいの方に参加していただいているのですが、もっともっと加入していただいて、今は県庁からの情報提供と、情報をいただいたものを返していくぐらいのことしかしていないのですが、今からは入っていただいた方同士の情報の交換ができる仕組みをつくろうと思っていますので、是非皆さんも入っていただきまして、こうしたすばらしい取組が広島県内全土に、こうして参加された皆さんに広がっていくような仕組みをつくっていきたいと思いますので、どうか御協力をお願いいたします。

それでは、たくさん貴重な御意見を本当にありがとうございました。

挑戦発表

(司 会)

時間が押しておりますので、次の「私の挑戦」の発表に移りたいと思います。ここでまた湯崎知事にこの「私の挑戦」の発表のコーディネーターを務めていただきたいと思います。湯崎知事、よろしくお願いいたします。

(知 事)

それでは、募集をさせていただいておりました「私の挑戦」ですけれども、今回は一般の方2名、そして、高校生が2名、中学生が1名の発表となりました。今日こちらで皆さんに発表していただきます地域で取り組まれているいろいろな挑戦が、明日の元気な広島県づくりのためになるというふうに感じておりますので、是非今日の発表者の皆様、元氣よく発表をお願いしたいと思います。

それでは、初めは呉市の「ひまわり 21」代表の大谷真由美さんです。テーマは、「多文化共生のまちづくり」です。どうぞよろしく申し上げます。

(挑戦発表者(大谷))

よろしく申し上げます。皆さん、こんにちは。ひまわり 21 の大谷といいます。今日は私たちのグループの挑戦についてお話ししたいと思います。よろしく申し上げます。

ひまわり 21 は、毎週土曜日、広市民センターで日本語教室を運営しています。毎週約20名の地域住民と、30~40名の外国人住民が集まり、日本語の勉強をしています。でも、私たちの教室は机に向かって勉強するというイメージではなく、教室の真ん中に喫茶コーナーをつくり、テーブルを囲んでお茶を飲みながら自由に話す時間を大切にしています。私たちはいつも家族のような暖かい雰囲気づくりを心がけています。

ひまわり 21 は、すべての住民に対して開かれた安心して過ごせる居場所であり、生活に根ざした生き生きとしたコミュニケーションを学ぶ場にしたいと思っています。さらに外国人住民が社会参加していくためのジャンピングボードであり、地域社会への窓口でありたいと思っています。

外国人住民と地域をつなぐ活動の一つとしてパネル展があります。今までに呉市役所1階、広市民センター、川尻公民館で開催しました。呉市役所でのテーマは「多文化共生のまち広」でした。広のまちの大きな地図をつくり、多文化共生の取組をしている場所に番号を打ちました。そして、それぞれの活動を紹介するパネルをつくりました。一番のパネルは、広公民館の日本語教室、二番のパネルは、くれ市民協働センターの子ども日本語教室というふうにつくりました。展示中に何人かの方が声をかけてくださいました。一番多かったのは、広は近いけど、遠いところの話みたいじゃねという声でした。

広市民センターでは、多文化共生のまち広のパネルと、日本語教室に参加している外国人住民の皆さんが好きなこと、うれしかったことを写真と文章で紹介した作品を展示しました。広にはたくさんの外国人住民がいるからか、文章がしっかり書けているし、字もきれいと感心して声をかけてくださった方が何人もいました。

川尻公民館では、多文化共生のまち呉のパネルと、呉の好きなところ、呉のいいところの新たなテーマで作品をつくり、展示しました。その中から二つ作品を紹介します。

今年の4月にタイから来たビットさんが、安芸灘大橋の写真にこんな作文を沿えてくれ

ました。「ここは安芸灘大橋です。毎日仕事が終わってからジョギングをします。小仁方から下蒲刈まで走ります。往復5kmです。景色がとてもきれいです。私はここから夕日を見るのが大好きです。」

続いて、去年の暮れにベトナムから来たカイさんの作品です。「時間はすごく早くたちます。日本に来てもう7ヵ月です。優しい日本人ばかりと働いています。日本の生活が大好きです。日本人は優しいです。日本大好き。」二人とも川尻に住んでいるので、会社の人や近所の方に見てもらおうことができよかったです。

そして、今、ひまわり21が地域交流活動として取り組んでいることが二つあります。

まずは、インターナショナルアートワークショップ in 広です。日本語教室に参加する外国人住民と地域住民、広島国際大学の学生が一緒になってステンドグラスをつくります。出来上がった作品は広市民センター1階ロビーに展示する予定です。

もう一つは、呉市消防局と連携して進めている防災教室のプログラムづくりです。内容は、119番のかけ方、消火の仕方、災害時の避難など5～6回の活動を予定しています。今日がその第1回目です。こうした活動は日本語教室の中だけにとどめず、呉市全域に広げて、呉が今よりももっと安心して住めるまちになるよう、みんなで考えながら活動していきたいと思います。もし興味がある方がいらっしゃいましたら、今日もあるのですが、一度日本語教室に遊びに来てください。土曜日の6時から、広市民センター5階です。よろしくお祈いします。ありがとうございました。

(知 事)

ありがとうございました。今、御紹介いただいたような活動が、地域に外国人の方がなじんていただくという上で本当に大事なことだと思っておりますけれども、逆に、日本人のほうも皆さんとなじんていただくと、それがさっき申し上げたような地域のグローバル化ということにまさにつながっていくと思っております。本当にありがとうございました。もう一度大きな拍手をお願いします。

続いて、江田島市の小林彰人さんです。テーマは「島民で創る観光地」です。よろしくお祈いします。

(挑戦発表者(小林))

こんにちは。私は、大柿町深江から来ました有限会社深水の小林と申します。よろしくお祈いします。

現在、大柿町深江で漁業に従事しています。漁業の種目は定置網漁業とちりめん漁を主に操業しております。私たちのコンセプトというのは、江田島の海からうまい魚を届けたいです。そして、私は今、鮮度の追求と、新しく生まれ変わる江田島市に挑戦しています。

初めに、鮮度の追求というのが、快眠活魚と申しまして、大分の方の特許技術なのです

けれども、特殊な針で魚の運動機能を抑制させる技術です。捕れた魚に針技術を施し、魚が泳がないで、運動しないことで魚体疲労、ストレス等を軽減し、魚の身質等劣化を防ぎ、より鮮度が長く持つという技術です。

そして、私はこの技術を習得して、理論と処理方法を学び、最高品質の身質を現在も追求しています。

そうした中で、江田島市のほうで24年度から民泊と体験学習、いわゆる修学旅行生誘致をするというお話がありまして、これを是非やってみたいと思いました。実際に今年の7月にデモ体験で大阪の中学生30名を私たちが行っているシラス漁に受け入れて体験しました。私自身、漁業を通して自然を相手に理論では伝えきれないことを経験してきましたので、子どもたちにも自然体験を通して感動したり驚いたりしながら、人とのかかわりあいの重要性を学んでいただいて、さらに、観察力とか探求心を深めてもらい、自信につながることを伝えたいと思いました。

この修学旅行誘致は江田島市全体で取り組めるものだと思いますので、この修学旅行等の受入れで、本当の江田島市の魅力の発掘にチャレンジしたいと思います。私は新しく生まれ変わる江田島市と自分に挑戦いたします。ありがとうございました。

(知 事)

ありがとうございました。漁業にも次々と新しく導入できる技術がある。それによって価値を高めていくということですね。本当にありがとうございました。もう一度大きな拍手をお願いいたします。

次は呉市立呉高等学校3年生、山田麻友佳さん、テーマは「自分への挑戦－陸上競技を通して学んだこと－」です。よろしく申し上げます。

(挑戦発表者(山田))

皆さん、こんにちは。市立呉高校の山田麻友佳です。私は中学生のころから走り高跳びをしており、何度もたくさんつらいことを経験したり、涙を流すことがたくさんありました。走り高跳びはトラック競技と違い、フィールド競技のため、自分自身との闘いです。そして、記録との孤独な闘いです。なので、周りの人たちの応援がとても力になります。その甲斐あって、今年の夏、インターハイに出場させていただきました。インターハイでは、周りの方々への感謝の気持ちを持って楽しんで競技をすることができました。インターハイは今年東日本大震災があった岩手県で行われて、その際、試合が終わった後に、岩手県の大船渡市と陸前高田市に行かせていただきました。8月ということもあり、瓦礫は大分撤去されていたのですが、まだ建造物で壊れたものなどたくさんありました。

自分が一番衝撃を受けたのは、海の一部のようになってしまった野球場と、テニスコートではなく駐車場で練習をする中学生の姿でした。自分が当たり前のように使っている競

技場やグラウンドが当たり前のものではないということをととても実感しました。そして、自分が大好きなことができるということに関して、とてもすばらしいことだなと実感しました。

これをきっかけに、私は将来スポーツを通じて様々な社会問題を抱えている国や地域に行って支援活動を行っていきたいと思いました。日本にある文化や技術、先ほど紹介があったようなオリーブの技術だったり、獅子舞の文化とかをほかの国とかに伝えていくような人間になりたいと思います。そして、スポーツを通じて、たくさんの人に支えられたように自分もそういうスポーツを通じて支えるような人間になりたいです。以上です。

(知 事)

ありがとうございました。今回の震災で、当たり前のことが当たり前でないということに気づいて、それがまた新たな自分の挑戦につながっていくということで、すばらしい。本当に高校生でそういったことを深く考えてくれるというのは、広島の高中生もやっぱり捨てたもんじゃないなど、我々も勇気をもらったような気がします。本当にありがとうございました。もう一度拍手をお願いします。

次は呉市立倉橋東中学校3年生の横道央さん、テーマは「倉橋町の豊かな自然環境を生かして」です。よろしくをお願いします。

(挑戦発表者(横道))

これから「倉橋の豊かな自然環境を生かして」というテーマで、私たちが挑戦したことについて発表します。

去年、本校の1年生が登校中に学校の横の船溜まりで打ち上げられたスナメリの死体を発見しました。そのことを呉市役所の方に連絡したところ、呉市の港湾局の方が来られ、その人たちによってスナメリが砂浜に埋められました。それから半年後、私たちが掘り起こして骨格標本にしようとしたところ、水産資源保護法によって保護動物に指定されていることが分かりました。スナメリは捕まえることはもちろん、死体を骨格標本にするにも農林水産大臣の許可が必要な生き物でした。そこで、県の水産課の方が協力してくださり、農林水産大臣に許可をいただき、骨格標本を作製しました。スナメリの骨格標本は、広島県で2体目だそうです。1体は宮島水族館にあります。宮島水族館の骨格標本は、私たちが骨格標本を作製しているとき、広島大学の博物館に貸し出されていました。スナメリの骨格標本は大変貴重なものだと気づきました。また、スナメリ自体にも興味を湧いてきて、調べ学習に取り組みました。その結果、スナメリはきれいな自然環境がないと生息できないことや、だんだん数が減っていることなどが分かりました。さらに、今年の夏、私たちは倉橋島の生息状況調査をしました。私たちの手元には多くの目撃例が寄せられました。今でも倉橋の周りにはたくさんのスナメリが生息しています。今回の調査を通して、改め

て倉橋の自然の豊かさに気づきました。8月21日には、公民館の講座でスナメリ学習会として学習の結果を発表しました。これは地域の皆さんに倉橋の自然の豊かさを伝える活動です。私たちは自然の豊かさや大切さなど、学習したことを地域の皆さんに伝えることで、地域の自然を守る活動に取り組むきっかけにしたいと思います。また、私たちはこのふるさとの倉橋に生まれ育ったことに誇りを持ち、住んでよかったという気持ちを持って生きたいと思います。

最後に、安芸灘を中心とした蒲刈の人たちや愛媛県の中島、山口県の大島の人たちとも協力して、自然保護活動の輪が広がってほしいという夢を持っています。

以上でスナメリについての調査発表を通して、私たちが挑戦したことについての発表を終わります。

(知 事)

ありがとうございました。スナメリを発見したところから始まって、次に掘り出す、骨格標本にすると考えるというのがすごいと思うのですけれども、それに大臣の許可が要る。それをとってしまう。そこまでいったら、今度は生息調査までして、最後に、地域の皆さんにそれを教えるという、この最初の一步のところからどんどん、どんどん広がって、最後には郷土愛につながっていくという、本当に素晴らしい活動ではないかと思います。

大臣の許可とか、どこかでもう大変だからいやと止まる機会はたくさんあったと思うのですけれども、それが最後までいって、本当に地域のためになっているというのは素晴らしい活動、素晴らしい挑戦だったと思います。どうもありがとうございました。もう一度大きな拍手をお願いします。

それでは、最後の発表です。県立大柿高校3年の牧野里保さん、テーマは「夢に向かって一看護師になって地域へ恩返しー」です。よろしくお願いします。

(挑戦発表者(牧野))

皆さん、こんにちは。大柿高校から参りました牧野里保と申します。よろしくお願いします。

私は今、看護専門学校の入試までにどれだけ自分の力が伸びるかということに挑戦しています。夏休みには毎日のように学校へ行き、環境が整っている中で集中して勉学に励むことができました。また、音戸高校との合同学習合宿にも参加し、1泊2日で12時間半、集中して勉強することができました。今後はたくさんの経験と努力をして、その知識を生かし、一人でも多くの患者さんを救えるような立派な看護師になりたいです。

小さいときから多くの人にお世話になりました。近所のおじさん、おばさん、保育園、小学校、中学校の友達や先生、そして家族、この人たちに恩返しをしたい。また、育ててくれた江田島市に恩返しをしたい。だから、認めてもらえる立派な看護師になれるよう、

毎日夢に向かって挑戦し続けています。以上です。

(知 事)

ありがとうございました。これまで本当にたくさんの人に助けられて大きくなってきた。それを忘れないで、人のために努力をする。看護師のための勉強をする。本当になかなかできることではないと思うのですけれども、これからまたいっぱい、いっぱい勉強して、恩返しできるように頑張ってください。どうもありがとうございました。もう一度大きな拍手をお願いします。

(司 会)

ありがとうございました。

閉 会

(司 会)

以上で、予定のプログラムは終了となります。

それではここで、湯崎知事に本日のまとめをお願いいたします。

(知 事)

それでは、改めまして、本日は本当に長いお時間、多少時間も延びておりますけれども、おつき合いいただきましてありがとうございました。

今日も皆さんそれぞれの活動を御紹介いただいて、私も改めて本当によかったな、すばらしいなというふうに感じております。

皆様もお感じいただけたと思うのですけれども、挑戦というのは、一つ一つ、それぞれ、挑戦ですから、何か難しいこと、困難なこと、乗り越えなくてはいけないことというのがあります。逆に言うと、それがないと挑戦ではありません。ただ、本当にその挑戦すべきこと、挑戦できること、身の回りにたくさんあるのではないかと思います。小さな挑戦もあれば、大きな挑戦もある。だけれども、それを乗り越えることによってよりよい明日、よりよい地域、よりよい人間関係、そういったものができるのではないかと思います。今日の皆さんの活動、お一人おひとりの活動、そして、私の挑戦の発表をしていただいたみんなの活動もそういうことではないかと思います。これが先ほど私が申し上げた県民皆様のお一人おひとりの活動が大きな動きになっていく。10年後の広島県を大きく変えていくということだと思います。是非これからも、皆様も身の回りのちょっとしたことから結構です。気づいたことを考えて、行動していただいて、そして、豊かな広島県づくりに力

を合わせていただければと思います。本日は本当にどうもありがとうございました。

実は終わりではありません。もう一つだけ、私から宣伝というか、お願いがございます。広島県では、今、四つの分野と申し上げましたが、その中にある「安心な暮らしづくり」、この中でがん対策というのに力を入れて進めております。このがん対策のために一番有効なのはがん検診を受診するという事なのです。ところが、この広島県は、がん検診の受診率が非常に低いのです。正直に言いますと、非常に成績が悪い。これが広島県の現状であります。早く見つければ、治る可能性が非常に高くなるというのが現代のがんであります。ということで、健康であるから行かなくてもいいとお感じになる今が、まさに検診の受けどきでありますので、是非皆さん検診を受けていただきたいと思います。

また、来月、10月15日の土曜日に、呉市体育館でがん検診の啓発イベントがございます。是非皆様、御来場いただければと思います。

ということで、今日の私の話を聞いていただいて、これから1年以内にごがん検診に行こうと思われた方、挙手お願いします。ありがとうございます。お約束です。是非行ってください。よろしくをお願いします。ありがとうございました。

(司 会)

ありがとうございました。

以上をもちまして、「湯崎英彦の宝さがしー未来チャレンジ・トーク」を閉会いたします。御来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。

なお、御来場時にお渡ししたアンケートと、ひろしま未来チャレンジネットワーク、先ほど御案内いたしました申込書を出口で回収いたしますので、どうかよろしく願いいたします。

本日は御参加をいただき、誠にありがとうございました。どうかお気をつけてお帰りください。